資料１

検討会（第２回）の振り返りと主な意見

令和８年２月

環境省自然環境計画課

１．前回検討会の振り返り ―①検討の全体像や今後の進め方について

■ 前回検討会では、全体像や進め方（議題１）、基本的な考え方（議題２）についてご意見をいただいた。
■ 議題１に関し、**評価手法は企業のニーズや国際的な検討状況を適切に踏まえるべき**とのご意見があった。
→「基本的な考え方」の検討のベースとし（資料２）、来年度の評価手法等の具体化の参考としたい（資料３）

■ 議題

（１）検討会（第１回）の振り返りと今後の進め方について
（２）「生物多様性の価値評価手法の基本的な考え方（仮称）」の素案について

■ 主なご意見

①検討の全体像や今後の進め方について（議題１関係）

＜評価手法（メトリクス等）のあり方について＞

〇企業は、メトリクスやスコアについての国のガイドラインを求めている。例えば、Nature Positive Initiative（NPI）のSON指標（State of Nature）では、生態系の面積、生態系の質、種の状態の３つを最低限評価すべきとしている。カーボンと異なり複合的な評価が必要だが、簡便性も重要。用途に応じた最小限のヘッドライン指標を整理できるとよい。（高川）

〇SONは広大な土地利用を対象としており、日本の土地利用は小規模でパッチワーク的なため、SONのヘッドライン指標だけでなく、サブ指標も考慮すべき。（原口）

〇NPIでは、SONのドラフトについてのパブリックコメントが始まるので、本検討会の議論をもとに、これに対するフィードバックを検討してほしい。（原口）

〇TCFDへの対応状況やTNFDで地域性が重要であることからすれば、全てを国際標準に合致させる必要はない。（三橋）

１．前回検討会の振り返り ―①検討の全体像や今後の進め方について

■ 議題１に関し、評価手法の活用スキームの想定について、**価値取引（クレジット等）に偏重せず、企業や地方自治体の目標・評価等への活用等を幅広く想定すべき**とのご意見があった。
→「基本的な考え方」の検討のベースとし（資料２）、来年度の評価手法等の具体化の参考としたい（資料３）

①検討の全体像や今後の進め方について（議題１関係）つづき

＜活用スキームの想定について＞

○生物多様性クレジットの必要性や有効性は確立しておらず、クレジットありきの評価手法としない方がよい。生態系管理の指標、環境目標、影響評価などの用途も想定すべき。価値評価をクレジットやオフセットに活用するよりも、地方自治体ごとのネイチャーポジティブの状態がわかるよう「見える化」に活用することが重要。（三橋）

○クレジットによる価値取引の拡大はよいことだが、それにしばられない方がよい。企業の本業対応や社会貢献活動の充実、地域戦略の重要地域評価等にとっても価値評価は重要。（高川）

○新たな取引市場でなくても企業版ふるさと納税など有用な既存の仕組みがあるので、もう少し視野を広げて議論すべき。海外の生物多様性オフセットでポジティブなものは聞いたことがなく、ミティゲーションヒエラルキー後の最終手段であることを前提に置くべき。（森）

○クレジットにフォーカスしすぎると価値評価のステークホルダーが限られてしまう。今後、生物多様性にポジティブな活動と財務的な効果とのつながりを多く例示すべき。（原口）

○事業評価に評価手法を活用する場合、従来の費用便益分析との関係を整理するとよい。（吉田）

○価値評価を公共事業部門に組み込んでいくことは有用。地方自治体や金融機関からのグリーンボンドなども可能性がある。多様な活用先を示せるとよい。（高川）

２．前回検討会の振り返り ―②基本的な考え方の素案について

■ 議題２に関し、「基本的な考え方」の**タイトルは現時点の内容との整合を図るべき**とのご意見があった。
■ また、議題２に関し、「基本的な考え方」の**背景として「ネイチャーポジティブ」等により明示的に言及すべき**とのご意見があった。
→「基本的な考え方」のタイトル、「１．はじめに」、「２．背景」、「３．対象と留意事項」などに反映等（資料２）

②基本的な考え方の素案について（議題２関係）

＜タイトルについて＞

○メトリクスの要件は何かを示すのが本来の「評価手法の基本的な考え方」である。タイトルと本文の整合が取れていない。（橋本）
○現時点では、評価手法自体に関して書いてあるわけではない。タイトルについては「評価手法を検討するにあたっての」とするのも一案。（中村太）

＜背景等について＞

○背景等において「ネイチャーポジティブに資する価値取引の制度」、「グリーンウォッシュにつながらない評価手法」などの言葉をしっかり書き込んでおくべき。（高川）
○背景等として、ネイチャーポジティブのもとネットゲインを各スケールで目指す上での評価の必要性、また多様な利活用方法に対応できる活用スキームの必要性への言及が重要。（三橋）
○サプライチェーンに言及して、評価手法のフォーカスに入れておきたい。（高川）

２．前回検討会の振り返り ―②基本的な考え方の素案について

■ 議題２に関し、「基本的な考え方」において、評価手法検討の背景や対象として、アジア・モンスーン地域を特徴づける**二次的自然やかく乱に依存する生態系等により具体的に言及すべき**とのご意見があった。
→「基本的な考え方」の「１．はじめに」、「２．背景」、「３．対象と留意事項」などに反映等（資料２）

②基本的な考え方の素案について（議題２関係）つづき

＜背景等について　特に二次的自然／かく乱に依存する生態系等の扱いについて＞

○国際的な議論を考えると、かく乱依存の生態系や生物に言及すべき。自然かく乱と人為的かく乱を区別すれば「里山」も入れやすい。（中静）
○かく乱や遷移の扱いに言及するとアジアの自然を考慮した評価手法らしくなる。人為的かく乱（管理）の扱いも充実させたい。災害復興・復旧の問題への投げかけもあるとよい。（吉田）
○かく乱について明示し、様々な遷移段階があることはマイナスでなく、順応的管理による価値の評価が重要であることへの言及があるとよい。（三橋）
○アジア・モンスーン地域の生物多様性の特徴を踏まえることが重要。かく乱の重要性、モザイク構造、レガシー効果などへの言及があるとよい。（高川）
○本件の動機には二次的自然への資源動員があると思うが、欧州にはかく乱環境の価値という概念がないので、日本が積極的にインプットしなければ国際的な共通認識は進まない。（原口）
○「アジア・モンスーン地域」の地理的な範囲には留意すべき。（橋本）
○自然共生サイトのほか、SATOYAMAイニシアティブや水田のラムサール登録など、従来日本が積み重ねてきた政策に言及しておきたい。（三橋）

２．前回検討会の振り返り ―②基本的な考え方の素案について

■ 議題２に関し、「基本的な考え方」において、今後も含め**メトリクス等のあり方や具体的な考え方に踏み込んで言及すべき**とのご意見があった。
→「基本的な考え方」の「３．対象と留意事項」に反映等したほか（資料２）、来年度以降の評価手法の具体化の参考としたい（資料３）

②基本的な考え方の素案について（議題２関係）つづき

＜メトリクス等について＞

○カーボンと異なり複合的な評価が必要だが、マーケットでの扱いやすさとトレードオフになるので階層性を持った評価が重要であることに言及すべき。（高川）

○メトリクスの要件（現状スコア・事後スコア、面積・特異性・状態・戦略係数など）の考え方を、基本的な考え方として記述すべき。（橋本）

○IPBESの報告書が指標の選択が既に価値判断を含んでいる旨を指摘しており、価値評価から落ちた部分を明示的に認めてもよい。（橋本）

○プレッシャーや生態系サービスなどとの関係を示さなければ、影響力のある仕組みになりにくい。（高川）

○英国生態学会の方法論雑誌で、状態遷移モデル（STMs）で選択的な状態を考慮し、人の介入が生態系の動的仕組みにどう関わるか予測する重要性が示されており参考になる。（森）

２．前回検討会の振り返り ―②基本的な考え方の素案について

■ 議題２に関し、「基本的な考え方」における**目標設定やミティゲーションヒエラルキーの位置づけや記述内容、陸水域・沿岸域生態系の扱い**についてご意見があった。
→「基本的な考え方」の「３．対象と留意事項」、４．(1)①の「2)目標設定･･･」、４．(1)①の「6)空間的視点―規模・サイズの設定」に反映等（資料２）

②基本的な考え方の素案について（議題２関係）つづき

＜目標設定について＞

○「目標設定」の項には目標設定の必要性を書き込むべき。メトリクスで測定できる目標が設定されることによって、はじめて取組の貢献度や価値の評価ができるようになる。（高川）
○「目標設定」の項ではネイチャーポジティブを考えるスケールに言及しておきたい。（三橋）
○「目標設定」に、評価手法で捉えられないこと（伝統文化等）が入っている。（橋本）

＜ミティゲーションヒエラルキーについて＞

○後半の活用スキームの項で「ミティゲーションヒエラルキー」が初出するのは遅い。（森）
○ミティゲーションヒエラルキーの重視はよいが、どういう植生からどういう植生への移行なら認められるのか、具体的に示しておきたい。（中静）

＜陸水域や沿岸域の生態系等の扱いについて＞

○陸水域や沿岸域の生態系は、規模だけでなくハビタットの質そのものが重要であり、書きぶりとして考慮が必要。（吉田）
○陸水域や沿岸域の生態系は周辺環境の影響を受けやすく、評価上の考慮に言及したい。（三橋）

２．前回検討会の振り返り ―②基本的な考え方の素案について

■ 議題２に関し、「基本的な考え方」における**データの取扱いやステークホルダー等にかかる記述の充実等**についてご意見があった。

→「基本的な考え方」の４．（1）の「②データ取扱の観点」、「５．ステークホルダーの役割・・・」に反映等（資料２）したほか、来年度以降の評価手法や活用スキームの検討の参考としたい

②基本的な考え方の素案について（議題２関係）つづき

＜データの取扱いについて＞

○データの取得や管理に関し、市民や省庁のデータで担保する「マクロ型」の評価とグランドトゥルースデータで担保する「詳細型」の評価といったカテゴリーを書けるとよい。（森）

○データは透明性を担保する唯一の手段として重要であり、今の「標準化やオープンデータ化の推奨」から踏み込んだ指針を書き込めないか。（森）

○環境省の「いきものログ」のほか博物館を含めて制度が整ってきているので、そこにバウチャー（証拠になるもの）を担保しておくのが望ましい。（三橋）

○価値評価の利用者がデータ基盤の整備に利益を還元することも今後議論できる。（高川）

＜ステークホルダー等について＞

○ステークホルダーの役割の項で国と地方自治体は分けて書いた方がよい。（三橋）

○価値評価やクレジットの運用は、国がガイドラインを示して具体は民間に任せるのがよく、その線引きを考える必要がある。（三橋）

2．前回検討会の振り返り ―②基本的な考え方の素案について

■ 議題２に関し、「基本的な考え方」において**現時点で明示できていない事項**や文中で使用している**用語の定義等**についてご意見があった。
→「基本的な考え方」の各部および「用語集」に反映等したほか、来年度以降の検討の参考としたい

②基本的な考え方の素案について（議題２関係）つづき

＜その他＞

〇ベースラインの減少、二重計上、成果の分割など、クレジットへの展開を見据えると議論できていない問題が多い。現時点で基本的な考え方に明示できていない留意事項の扱いは要検討。（高川）
〇文中の「科学的な信頼性」の表現は厳しすぎて現実的でないものになるおそれがある。（中村圭）
〇ベースライン、リファレンスなどの用語法がわかりにくい。言葉の定義に留意。（森）
〇「価値取引」はクレジットの取引だけを指すものではないようだが、これらの用語の定義は認識統一のために重要。（高川）
〇クレジットの種類に関する言葉がぶれている印象。入門編としては「貢献」と「補償（オフセット）」だけに絞るなどシンプルな方がよいかもしれない。（中村圭）

３．今回検討会の論点

論点１　基本的な考え方の案について

前回検討会におけるご意見を踏まえて修正し、**「基本的な考え方」の案**を作成したところ（**資料２**）。本検討会において引き続き内容を見直していく前提で、この「基本的な考え方」のもと評価手法や活用スキームの具体化の検討を進めてよいか、ご意見をいただきたい。

➡ **資料２「生物多様性の価値評価手法の検討にあたっての基本的な考え方（案）」**

論点２　来年度以降の検討の進め方について

「基本的な考え方」のもと、来年度以降に評価手法や活用スキームを具体的に検討するため、**今後の進め方**を整理した（**資料４**）。このような進め方でよいか、ご意見（助言・留意点等）をいただきたい。

➡ **資料４「来年度以降の検討の進め方について」**

環境省
Ministry of the Environment